

平成 28 年 3 月 12 日

P T A 第 9 回運営委員会

あしたのあさひ

～ P T アクションと校長室をつなぐ～

県立旭高等学
校長 古谷康司

卒業式では、このまなびの場所で 3 年間をすごした若者の成長した姿をたくましく思い、新たな旅立ちにエールを送る。卒業生本人はもちろん、保護者の方には、何よりの喜びのことと思います。あらためまして、卒業生の保護者の皆様、おめでとうございます。

卒業生代表の言葉から、旭高校が好きでたまらない。何よりも大切な仲間とともに成長し、夢に向かって突き進む決意を聞いて感動しました。こんな高校生活を送れたことに対し、保護者をはじめとする皆さんへの感謝の言葉のときには、生徒が巣立っていく寂しさを強く感じました。

旭高校を好きになってくれた卒業生に感謝し、素直で元気な若者に育て上げられた保護者の皆様に敬意を表するとともに、一緒に学校生活を過ごすことができた教職員を代表して、お礼申し上げます。

校長として迎えた初めての卒業式。思い出すだけで、いまだに目頭が熱くなります。その中で、「切磋琢磨」という言葉を送りました。仲間とともに、いつまでも自分を磨き上げる。旭高校の卒業生として大事にしてほしい言葉です。

うれしい話題がもうひとつ。総合的に最も優れた成果や実績を上げた学校として、かながわ部活ドリム大賞「グランプリ」を、さらに、女子バスケットボール部の「スポーツ賞」をはじめ、3つの個人賞（キャプテン賞、マネージャー賞など）を受賞しました。

すべての部活動が「ひとつ上」を目指してがんばっています。部活動が特色の旭高校にとって何よりの賞をいただきました。